

世界中から87万人が応募！ 厚切りジェイソンやパッケンも受けた 日本語能力試験と日本語教育

国際交流基金 吾郷 俊樹

1 はじめに

おとしあたりだったか、何気なく見ていたお笑い番組、R-1グランプリ（吉本興業主催のピン芸人コンクール）。ホワイトボードに漢字を書き、「Why Japanese people!」と絶叫する白人の大男。R-1グランプリに外国人で初めて、しかも芸歴最短記録（4か月）も更新して決勝進出。この男「厚切りジェイソン」。飛び級で大学入学し、現在、IT企業の役員との二刀流芸人。

2005年に19才で来日したときに観た「エンタの神様」の面白さにはまり、お笑い芸人をやりたいと思い再来日。芸人デビューし、今日に至る。

「英語でしゃべらナイト」などでおなじみのパッケンこと、パトリック・ハーランは、23歳で日本に来るまでは、日本語どころか、日本についてもあまり知らなかったという。日本に来たら日本人がいっぱいいるから日本語を「喋らない」と思ってゼロから日本語を学び始めたという。

彼らは日本語が上手いが、どれくらい上手いのか。年に2回、世界中で日本語能力試験が実施さ

れている。厚切りジェイソンは、再来日するまでに独学で日本語を勉強し、2008年に日本語能力試験2級、翌年には最高難度の1級を取得。パッケンも2年間の独学で1級を取得、更に漢字能力検定準一級という、やくみつるみたいな人でない限り日本人でも非常に難しいレベルにチャレンジし、こちらは玉砕したという。

2 日本語学習者数

彼らもこれだけ日本語が上手くなるには、きつと相当勉強しているはず。ピンは厚切りジェイソンやパッケンのような上級者から、キリは挨拶程度の人まで、実際、様々なレベルの人が世界中で日本語を学習している。

なぜ日本語を学習しているかという点、日本語そのものへの興味が62.2%と一番、5番以下で「将来の就職」42.3%、「日本への留学」34.0%と実利的な目的を上回る。「Youは何しに日本へ？」などのテレビ番組を見ていると、確かに日本に興味を持ってやってくる人が多いのかも。ただ、高等教育に絞ると、より実利的な目的が多い。

では、日本語学習者はどれくらいいるのか？2015年に、教育機関に属して日本語を勉強している学習者は、世界中で366万人。日本語教師は6万4千人、教育機関は1万6千件と、調査開始の1979年と比べ、それぞれ、28.7倍、15.6倍、14.1倍に増加。ここには独学で勉強した人は入らないので、学習者は実際はもっと多い。

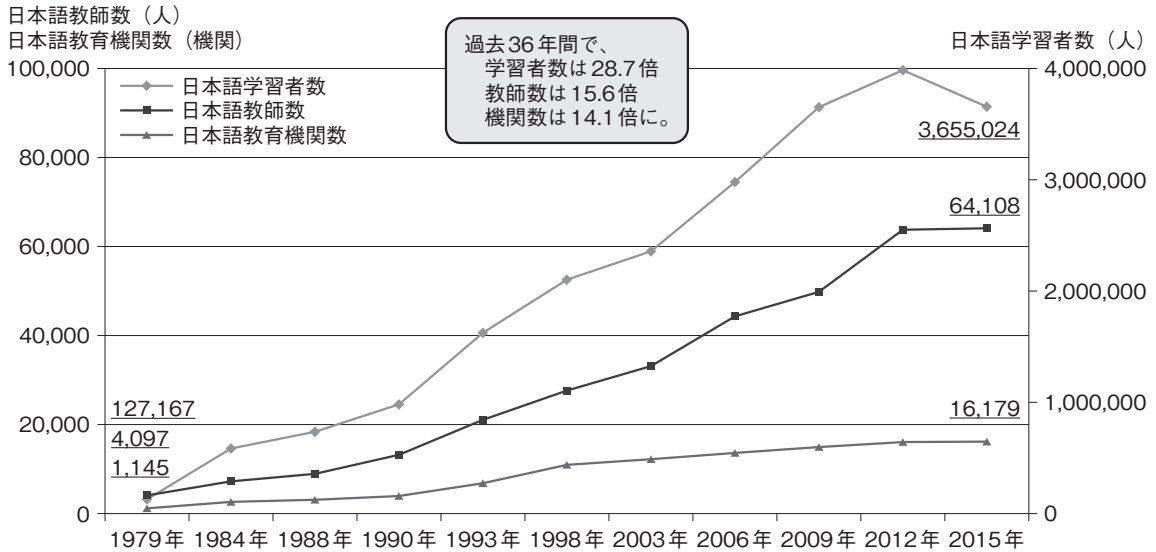
地域別だと、アジアの学習者が全体の8割、うち東アジア（中国、韓国、台湾、香港、マカオ）で48.2%、インドネシアを筆頭に東南アジアで29.9%、南アジアで1.1%。次が日本との経済関



Photo by Kenichi Aikawa

「日本語は日本に来てからゼロから学びました。」と語るパッケン

日本語学習者/教師/教育機関数の推移



出典：国際交流基金

係が強いオーストラリアが多い大洋州で10.7%、北米は5.2%と続く。この他、全体で2.3%の西欧の中ではフランスが一番、1.4%の中南米の中ではやはりブラジルが多い。

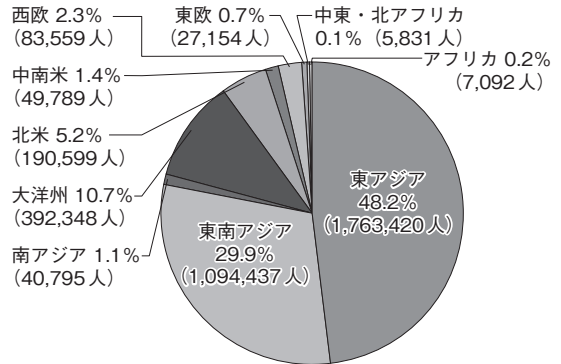
国・地域別でみると、1位は中国 (953,283人 (2012年1,046,490人 (▲8.9%))、2位インドネシア745,125人 (同872,411人 (▲14.6%))、3位韓国 (556,237人 (同840,187人 (▲33.8%))、4位オーストラリア357,348人 (同296,672人 (20.5%))、5位台湾 (220,045人 (同233,417人 (▲5.7%))、6位タイ173,817人 (同129,616人 (34.1%))。上位国の多くが減少するなか、タイは大幅増加で前回6位の米国を逆転。東南アジアでは、他にもベトナムは38.7%、フィリピンは54.4%、ミャンマーは242.8%も急増。

なお、人口10万人当たりの学習者数はオーストラリアがトップで1,491人、これに韓国1,106人、パラオ1,005人と続く。

日本語学習者の主な増減要因は、①教育制度改革、②経済的なつながり、③学生数の変化などである。

まず、学習者に占める学校教育のウェイトは大きい (中等教育47.3%、高等教育28.5%、初等教育7.6%、学校教育以外16.6%)、教育制度改革の影響

日本語学習者の地域別の割合



出典：国際交流基金

響は大きい。世界的な英語教育重視の流れで、学習者数トップ中国や第3位韓国では英語シフトで減少、第2位インドネシアでも第二外国語が必修科目から選択科目化したことにより減少。逆に、オーストラリア、英国等で初等教育に新たに日本語を導入した機関の増加で学習者増加。日本だと学校で英語以外の言語を学ぶ機会は、基本的に大学まででないことが多いと思うが、世界では中等教育、場合によっては初等教育レベルから第二外国語がある。やはり英語は圧倒的に強いので、通常、第一外国語は英語で、第二外国語で何語を選ぶかで、日本語が選ばれるかという争いになる。例えば、ラオスでは、中等教育カ

各国・地域の学習者数/機関数/教師数(学習者数順位)

順位	2012年 順位	国・地域	学習者(人)			機関(機関)			教師(人)		
			2015年	2012年	増減率(%)	2015年	2012年	増減率(%)	2015年	2012年	増減率(%)
1	1	中国	953,283	1,046,490	▲8.9	2,115	1,800	17.5	18,312	16,752	9.3
2	2	インドネシア	745,125	872,411	▲14.6	2,496	2,346	6.4	4,540	4,538	0.0
3	3	韓国	556,237	840,187	▲33.8	2,862	3,914	▲26.9	14,855	17,817	▲16.6
4	4	オーストラリア	357,348	296,672	20.5	1,643	1,401	17.3	2,800	2,685	4.3
5	5	台湾	220,045	233,417	▲5.7	851	774	9.9	3,877	3,544	9.4
6	7	タイ	173,817	129,616	34.1	606	465	30.3	1,911	1,387	37.8
7	6	米国	170,998	155,939	9.7	1,462	1,449	0.9	3,894	4,270	▲8.8
8	8	ベトナム	64,863	46,762	38.7	219	180	21.7	1,795	1,528	17.5
9	10	フィリピン	50,038	32,418	54.4	209	177	18.1	721	556	29.7
10	9	マレーシア	33,224	33,077	0.4	176	196	▲10.2	430	509	▲15.5
11	11	ニュージーランド	29,925	30,041	▲0.4	257	281	▲8.5	378	431	▲12.3
12	14	インド	24,011	20,115	19.4	184	204	▲9.8	655	575	13.9
13	15	ブラジル	22,993	19,913	15.5	352	325	8.3	1,140	1,132	0.7
14	13	香港	22,613	22,555	0.3	70	73	▲4.1	523	618	▲15.4
15	16	フランス	20,875	19,319	8.1	222	205	8.3	723	701	3.1
16	17	英国	20,093	15,097	33.1	364	308	18.2	704	585	20.3
17	12	カナダ	19,601	23,110	▲15.2	178	228	▲21.9	727	765	▲5.0
18	18	ドイツ	13,256	14,393	▲7.9	181	193	▲6.2	457	547	▲16.5
19	30	ミャンマー	11,301	3,297	242.8	132	44	200.0	524	194	170.1
20	20	シンガポール	10,798	10,515	2.7	30	20	50.0	227	190	19.5

出典：国際交流基金

リキュラムに第二外国語科目を導入。英語が第一外国語の場合、フランス語、ベトナム語、中国語、日本語の中から第二外国語を選択。従来、外国語の国定教科書は英語、フランス語のみ。それらに次いで、現在、日本語の教科書開発が進められており、中学1年生用の日本語の国定教科書が今年完成。

このように教育制度が変わると影響は大きいので、地道に相手国の教育省などに日本語教育の導入、維持を働き掛けていくことが重要。そのためにも日本が様々な面で魅力的でないといけない。

次に、経済的なつながりに関しては、教育制度改革で減少したインドネシアを除き、日本語人材の給与水準も高いという東南アジア諸国では、最近かなり学習者が増加。インドでも日印の経済関係緊密化に伴い、日本語学習の需要が増加。9月の日印首脳会談の際、共同声明で、今後5年間でインドの100の高等教育機関において日本語講座を開設し、1,000人以上の日本語教師の研修に取り組むことが表明されている。

また、母集団の学習者の主要層である学生数が減少すれば、当然、日本語学習者も減少。韓国や東欧最大の学習者のいるロシアで若者が減少しているのも要因。

3 日本語能力試験 (JLPT)

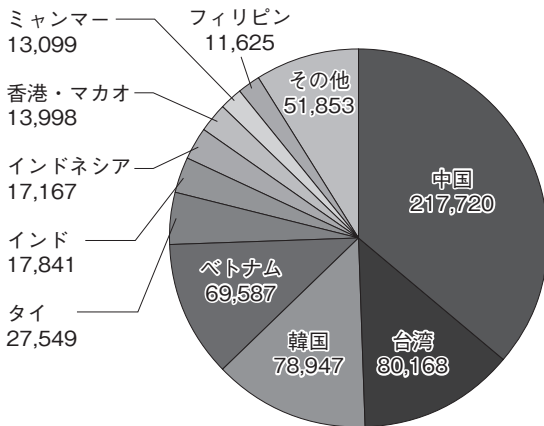
語学をある程度学習すると、どれくらい上達したのかを知りたくなる。それに、学校の入試や企業の採用に当たって、語学能力を客観的に測れる指標は重要。

厚切りジェイソンやパクンも受けた日本語能力試験は、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し、N1からN5の5レベルで認定。学習到達目標の設定により、学習意欲継続・向上を促し、日本語教育の普及に資するもの。7月と12月に実施。実施国・地域は年々増加し、2016年には73の国・地域228都市、日本国内135会場で実施。

応募者は年々増加し、2016年には、866,294人(7月389,674人、12月476,620人、国内266,740人、海外599,554人)。1984年の試験開始以来、累計応募者は1,000万人以上。その規模感は、2017年の大学入試センター試験の志願者数575,967人の1.5倍。(ちなみに人口87万人未満の県は7県。)更に2017年7月は対前年7月比20%増加。

国・地域別だと2016年で、海外での応募者は、中国が1位(217,720人)、2位台湾(80,168人)、3位韓国(78,947人)、4位ベトナム(69,587人)、5位タイ(27,549人)、6位インド(17,841人)。国内の受験者は、ベトナム1位(78,853人)、中

2016年 海外での国・地域別応募者数上位10国



出典：国際交流基金

国2位 (73,180人)、ネパール3位 (15,761人)、インドネシア4位 (11,762人)、フィリピン5位 (9,942人)、台湾6位 (9,194人)。

わざわざ受験料を払って(国内で一律5,500円)日本語能力試験を受けるのは、日本語学習者の中でも相当勉強した人。中国は学習者数と同様、試験を受ける人も圧倒的に多いが、海外と国内の合計だとベトナムが2位。学習者数では2位のインドネシア、4位のオーストラリアがそれほど多くないのは、試験を受験するレベルでない初級レベルの学習者が多いため。

現状、試験は、読解と聴解のマークシートで、採点が大変なスピーキングやライティングはない。かつて1級から4級とされていたのが、2010年から始まった新形式の試験では、最高難度をN1(新聞の論説や評論、まとまりのある会話やニュース・講義といった、論理がやや複雑で抽象度の高い日本語を理解できる)、一番やさしいレベルをN5(初歩的な語や文が理解でき、ゆっくりした短い会話であれば内容がほぼ理解できる)としている。

日本語学習者にとって一つの壁は漢字。パッキンも、漢字には苦労したという。ただ、パッキンによると「ある程度覚えると、逆に語彙力を上げるのがすごく簡単になる、基本の数を覚えると応用が利き、100覚えれば、次の100覚えるのがさらに早くなり、500覚えたら、その次の500、1000が倍、3倍速くなる」というし、また、「新しく聞いた単語

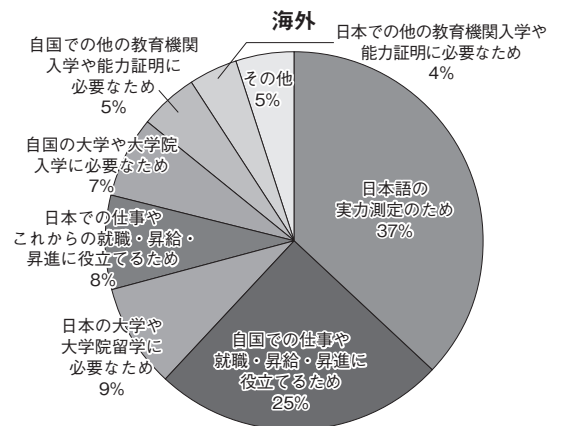
を漢字で分析すれば、意味も分かる」という。

試験の中身をみると、一番やさしいN5のレベルだと、漢字はほとんど出てこないか、出てきてもルビ入り。単純な表記の問題から、電車とバスの時刻表が与えられていて、電車とバスを乗り継いで目的地に着くにはどの電車に乗るとよいかを選択させるという日本語を使った課題遂行力を問う問題。

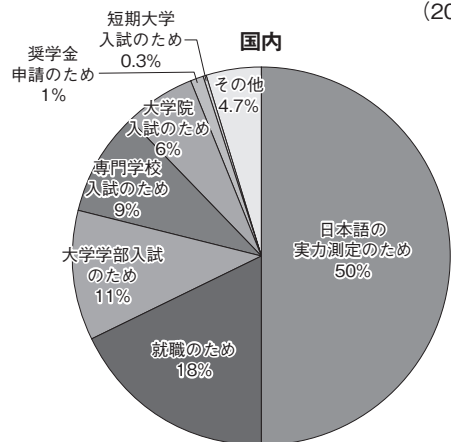
一番難しいN1になると、漢字が普通に出てきて、ルビはなくなるので、日本人にはかえって簡単。聴解になると、かなり長い会話文を聞いて、意味を理解しているかを問う問題。日本人でもメモを取らないと正解は難しい。

この試験は、日本語の実力測定のためという理由に次ぎ、日本で就業する際など重要な資格要件のため、自国での仕事や就職・昇給・昇進に役立てるためといった実利的な目的で受験する人が多い。

受験者の受験目的



(2016年)



出典：海外 国際交流基金
国内 公益財団法人日本国際教育支援協会

重要な資格要件の例として、高度人材ポイント制による出入国管理上の優遇制度がある。ポイントが70点で優遇されるが、最高難度のN1は15ポイント、N2でも10ポイントが加算。また、多くの大学等で受験資格として採用。さらに、医師国家試験においても、日本の中学及び高等学校を卒業していない者は、日本語能力試験N1の取得を受験資格の認定基準要件の一つとしている。後述の経済連携協定に基づく看護師・介護福祉士の候補者の受入に際してもN3以上の取得が訪日の要件。

4 各国政府関係機関による語学教育

語学教育は、我が国に限らず、各国の国際文化交流の重要な柱。語学教育はその国の文化の深い理解を得るには有効なツールだからだ。英国のブリティッシュ・カウンシル、フランスのアンステイチュ・フランセ、ドイツのゲーテ・インスティトゥートには長年の語学教育の実績がある。

例えば、英国のブリティッシュ・カウンシルは、英国の公的な国際文化交流機関。東京では飯田橋にあり、英語教育が事業の柱。英語の力は圧倒的に強く、自前の試験 (IELTS) のほか、実施体制のノウハウを活用して外国の試験代行サービスや日本の大学などから英語教育事業を受託。アングロサクソン系っぽく、施設は至ってこじんまりとして、機能的だが、語学教室は飯田橋のお堀が見える側にあり、お花見の季節には特等席にな

りそうだ。

次にフランス。アンステイチュ・フランセが政府公式機関として仏語講座やフランス発の文化、思想、学問を発信。文化イベントに力を入れていて、2万5000人近くの受講生を抱え、年間300件以上の文化イベントを企画。飯田橋にあるアンステイチュ・フランセはいかにもフランスっぽい、しゃれたつくり。語学教室のほか、中庭にはフランス人のギャルソンがサーブしてくれるレストラン、映画館や図書館もあり、フランス映画の上映会やお祭りなどを頻繁に開催。東京にフランス文化圏の異空間を形成している。

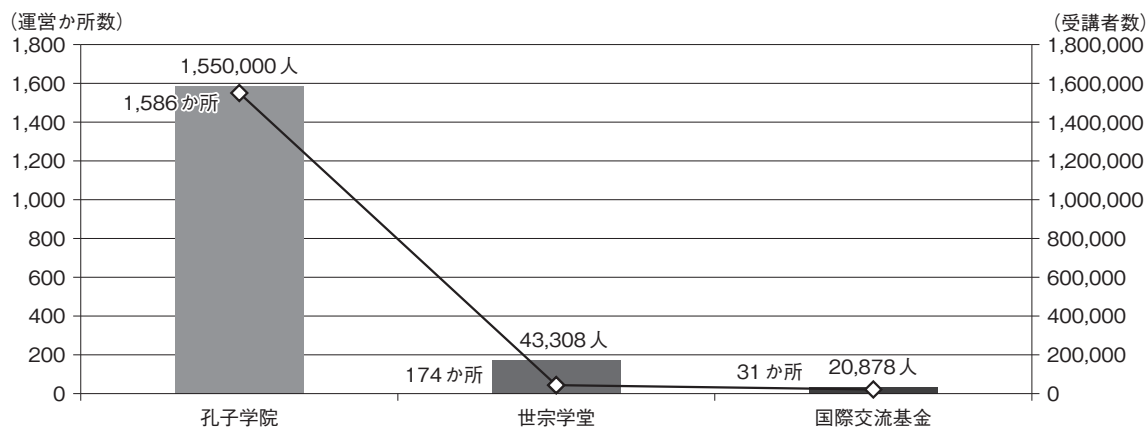
アジアでも、中国や韓国は自国語教育に力を入れており、海外での政府機関による自国語教育の取り組みは、日本語は運営箇所数31か所、受講者数20,878人だが、中国語 (孔子学院) は、運営箇所数1,586箇所、受講者数1,550,000人と二桁違うし、韓国語 (世宗学堂) でも174か所、43,308人と日本を上回る現状。

5 海外の日本語教育の動き

最近の海外での日本語教育の動きをまとめると、まず、初等教育において、日本語教育が拡大傾向。

前述のとおり、教育制度改革などにより上位3か国 (中国、インドネシア、韓国) で減少している一方、多くの国では増加し、国・地域毎に傾向が多様化。

自国語講座運営の状況



出典：国際交流基金

また、海外進出日本企業から現地人材への日本語教育に対するニーズが増加。

企業サイドのニーズは、海外ばかりではなく、日本で仕事をする外国人についてもあり、技能実習制度・EPAなど、日本への受け入れ人材の育成のための日本語教育ニーズが増加。

特に東南アジアでは、民間日本語教育機関の学習者が増加。

学習方法も多様化しており、かつては教育機関で学習するしかなかったが、インターネットやeラーニング等での学習者も一定数存在。日本語の無料学習サイトも充実し、海外にもファンの多いアニメ・マンガの日本語を通じて自習できるサイトもある。

以下、具体的な日本語教育の取り組みについて少し御紹介する。

6 日本語パートナーズ派遣

JETプログラムという外国語教育の充実と地域の国際交流の推進を図るプログラムがある。関係省庁等の運営協力の下、地方自治体が外国青年を招致し自治体や学校で任用するもの。多くの経験者が、親日派・知日派として様々な分野で活躍している。

逆に日本人が外国に長期間滞在し、外国の学校での日本語教育を助けるいわば、「逆JETプログラム」が日本語パートナーズ派遣である。2014年から2020年までの7年間で3千人以上の日本語母語話者を、現地の日本語教師や生徒の日本語学習のパートナーとしてASEANを中心とするアジアに派遣する。

彼らは、現地日本語教師のアシスタントとして授業をサポートしたり、日本文化の紹介を通じて、派遣先の生徒や地域の人たちと交流し、また、現地の言葉や文化を習得する。これにより、生徒の学習意欲が高まり、受入機関側の日本語学習が広がり、日本への関心が上昇。派遣者もアジアでの仕事や生活経験を通じてグローバル人材になる。

満20歳から満69歳で日本国籍を有すること、日常英会話ができることなどの要件を満たせば、経験は問わず、誰でも応募できる。約1か月の派



インドネシアの高校にて、山崎芳裕さんの送別会

遣前研修で生活や活動に必要な現地語、現地事情などの知識を身につけることができ、給料はないが、滞在費、旅費などが支給され、住居も提供。

対象年齢層は幅広いが、最大1年程度の長期のため、学生カリタイアした人の応募が多い。若い人にはグローバル人材となるチャンスに、シニアの人にはこれまでの経験を活かす機会になる。シニアは男性も多いが、若い人は圧倒的に女性が多い。シニアの例だと、今年3月までインドネシアの高校に派遣されていた68歳の山崎芳裕さんは、現地で大歓迎を受け、7か月の滞在を終え、帰国時には、全授業を中止し4時間もの全校送別イベントが開催されたという。若い人の中には、マレーシアに派遣された人で、その後外務省職員になった人もいる。

最近では、例えば、タイ教育省の要望により、職業高校に長野高専の生徒や教員を派遣し、ロボコン（全国の高専対抗のロボットコンテスト）経験者の体験談など高専生ならではの文化紹介も実施。長野高専では、日本独自の高専教育モデルをタイに「輸出」することも目指しているという。

7 EPA

経済連携協定（EPA）に基づくインドネシア、フィリピン及びベトナムからの看護師・介護福祉士候補者については、よく報道されるので、ご存知の方も多いと思う。これは、原則として外国人の就労が認められない分野において、経済活動の連携の強化の観点から、2国間の協定に基づき、公的な枠組みで特例的に受け入れているもの。

看護師は3年間、介護福祉士は4年間の滞在期

間中に国家試験を受験でき、合格すれば、滞在期間の更新に制限なく、看護師・介護福祉士として働ける。

彼らは、来日前からの日本語学習で一定の日本語能力を身に付け、来日後も日本語研修を受ける。インドネシアとフィリピンは訪日前日本語研修を6か月間受け、日本語能力試験N5（一番やさしいレベル）程度以上を取ることが入国の前提。訪日後も6か月間の日本語等研修を受けてから、受け入れ施設に行く。ベトナムは、訪日前にみっちり12か月の日本語研修を受けて日本語能力試験N3以上を取ることが前提。入国後もさらに2か月の日本語等研修を受けてから受け入れ施設に行く。

このように彼らに無事に看護師・介護福祉士として活躍いただくためのベースとなるのが日本語教育。

8 外交官・公務員研修

将来、対日関係に関わることが期待される若手の外交官・公務員に日本語や日本事情を理解してもらうことは、その国での波及効果も大きい。このため、毎年、8か月間、関西国際空港近くの国際交流基金関西国際センターで研修が行われている。前身の研修を含めこれまで963名の外交官・公務員が研修に参加。今年も世界34カ国から参加。

この研修の第一の目的は、日常生活に必要な日本語能力習得、さらに実用的な言語スキルを身につけること。もともと優秀な人たちでもあり、研修開始後数ヶ月で地元の方々とある程度コミュニケーションがとれるようになるという。

更に文化活動として、書道・和太鼓・俳句・生け花・着物の着付けなどがある。

広島・京都・東京などへの地方研修もあり、その間、外務省等の政府機関等との面談や、日本の伝統芸能（文楽・能・狂言）鑑賞などもあり、日本文化の隠れた側面を発見し、日本社会の仕組みを理解するのに役立つという。歓迎レセプションで会ったインドネシアからの研修生は大の日本漫画ファン。世界中で4億部以上売れているベス



2015年度の外交官・公務員日本語研修参加者

ト・セラー「ONE PIECE」を未だ読んでいないというので、第1巻を贈る。

ここの修了生で駐日大使になっている人が何人もいる。修了生である駐日トゴ大使によると、はじめて日本語を見たときは、果たして日本語が書けるようになるのか？ と疑問に思ったが、先生がプロで、1、2週間も経つと、生徒全員が英語やフランス語のABCDのようにひらがな、かたかなを書けるようになったし、各国からの研修生が家族のように仲良くなったとのこと。現在も、トンガ、カザフスタン、ルーマニア、パキスタンの駐日大使がこの研修の修了生。きっと、今年の研修生の誰かも駐日大使になって戻ってくる。

9 おわりに

繰り返しになるが、語学教育は、国際文化交流の重要な柱であり、その国の文化の深い理解を得るには有効なツールである。

海外での日本語教育は、近年、総じて、人気が高まっているが、以下のような課題もある。

まず、海外進出日本企業が必要とする産業人材や、技能実習制度等の訪日ニーズの拡大などによって急激に増大する日本語学習ニーズに必ずしも十分に対応できていない。

海外で日本語教育を行う人材は、各国の日本語教師も、海外で教える日本人日本語教師とも不足しており、その育成が急務である。

さらに、地域的にみると、まず、南アジア、中央アジア、アフリカ、中南米等、日本語教育が拡

大しつがあるが、現地日本語教育拠点が十分に育っていない地域があり、将来の日本語人材拡大の基盤作りが必要である。米国においても中西部から中央部等では、まだ日本語学習者も少ないことから、こうした地域へのアプローチが必要である。

また、日本語能力試験については、多様な学習ニーズに対応した精度の高い問題の出題を、社会的信頼の高い試験として継続的に実施していくことが最重要。中長期的な課題としては、よりコミュニケーション能力を図るためのスピーキング/ライティング能力の測定も必要で、そのためにはコンピュータ試験の導入も必要である。

このような日本語教育、勿論、日本の国際文化交流機関である国際交流基金の事業の重要な柱である。

主な参考文献

- ・ 外交青書2017、外務省
- ・ 海外の日本語教育の現状 2013年発行、2017年発行、国際交流基金
- ・ 国際交流基金 平成28（2016）年度年報

Website等

- ・ 外務省のWebsite <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/bluebook/2017/html/index.html>
- ・ 国際交流基金のWebsite <http://www.jpf.go.jp/j/index.html>
 - ・ ゼロからの日本語学習と僕の好きな日本のカルチャー <http://www.wochikochi.jp/topstory/2011/04/packun.php>
 - ・ 日本語教育機関調査 <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/>
 - ・ 日本語能力試験 <http://www.jlpt.jp/>
 - ・ アニメ・漫画の日本語 <http://anime-manga.jp/CharacterExpressions/>
 - ・ 日本語 e-learning みなと <https://minato-jf.jp/>
 - ・ まるごと 日本語と日本文化 <https://www.marugoto.org/>
 - ・ 日本語パートナーズ <http://jfac.jp/partners/>
 - ・ 外交官・公務員日本語研修 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/culture/hito/kenshu/index.html>
 - ・ 【20周年記念】専門日本語研修（外交官・公務員）修了生からのメッセージ <https://www.facebook.com/DLGLOBAL/>
 - ・ 【JFTV vol.1】 Interview：駐日トーゴ共和国大使館 ステイプ・ボジヨナ臨時代理大使/Steve BODJONA, Embassy of Togo in Japan <https://www.youtube.com/watch?v=6FZ7MBprT4>

- ・ 厚生労働省のWebsite インドネシア、フィリピン及びベトナムからの外国人看護師・介護福祉士候補者の受入れについて http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/gaikokujin/other22/index.html
- ・ ブリティッシュ・カウンシルのWebsite <https://www.britishcouncil.jp/>
- ・ アンスティチュ・フランセ日本のWebsite <http://www.institutfrancais.jp/>
- ・ ゲーテ・インスティトゥート東京のWebsite <https://www.goethe.de/ins/jp/ja/sta/tok.html>